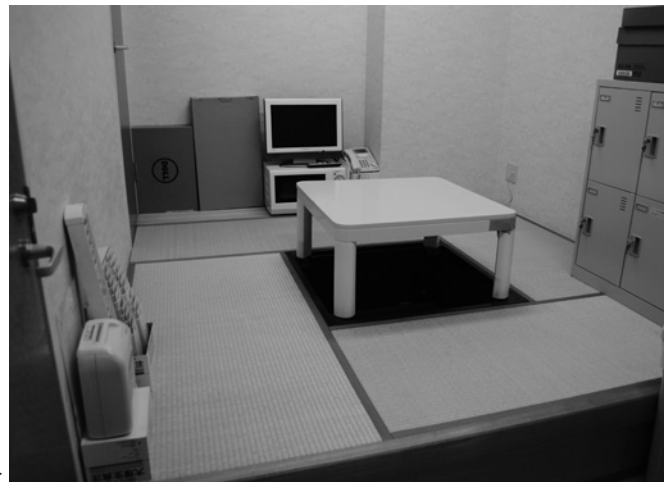


## Case2

# スタッフの働きやすさと コミュニケーションを促進

医療法人社団青海会 しんゆり青木整形外科（川崎市麻生区）



↑スタッフルームのドアには経営理念が貼り出されている

中央に掘りこたつを設けたスタッフルーム→

## 収納面などの課題を

### 女性目線を取り入れクリア

「2009年の開業時に、スタッフ同士がコミュニケーションをとれる場を設けることで、和気あいあいとした働きやすい職場にしたいと思い、スタッフルームをつくりました」。こう語るのは、しんゆり青木整形外科の青木航洋理事長だ。

開業前にいくつかの診療所を見学したが、なかには、リハビリ室や待合室を休憩時間中は休憩室代わりに使っているところもあったという。

「もちろん休憩時間をどこで過ごすかはスタッフの自由です。しかしスタッフルームがあれば、そこに集まって昼ごはんを食べながら、リラックスした会話ができるのではないかと思います」

そこで、リハビリ室の奥に4畳半ほどのスペースを設け、スタッ



「スタッフのコミュニケーションを促進するためにスタッフルームを設けました」と話すしんゆり青木整形外科の青木航洋理事長

フルームとした。業務時間内は立ちっぱなしのスタッフが足を休められるようにという配慮から畳を敷き、掘りこたつを設置。壁紙は桜柄を選んで明るい雰囲気。昼ごはんを食べる場でもあるので、キッチンや電子レンジ、テレビなども備えた。

スタッフルームを使用する際の決まりごとは、「その場にはいない人の悪口は言わないこと」。青木理事長はこのことをスタッフに周知徹底している。

同院は整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科を標榜しており、看護師や放射線技師、リハビリ職、事務職など、さまざまなスタッフが在籍。患者数が増えたことで、スタッフ数が開業当時の30人以上に増加。休憩時間は全員が室内に入りきららず、リハビリ室などで食事をしているスタッフも多い。休憩時間をバラバラに過

ごすことが増えたからこそだ。

スタッフの働きやすさを考えてスタッフルームを設けたものの、開業から4年が経ち課題も出てきた。それは収納面だ。スタッフが荷物を置く場所が足りなくなったため、女性用にはコートや大きめのカバンが入る大きいサイズのロッカーを、男性にはそれより一回り小さいロッカーを用意。荷物の多さに合わせて用意することで、収納面の課題をクリアした。

青木理事長は自身の経験をもとに、これからスタッフルームを設けようと考えている院長にこうアドバイスする。

「患者さんが増えれば、自然とスタッフも増えます。そのため、前もって、ロッカーや傘立て、靴箱は多めに用意しておいたほうがいいでしょう。さらに診療所は女性スタッフが多いため、冬場にはブーツなどを置く場所が必要となります」

こうした視点は、男性の院長ではなかなか気がつかないはず。女性目線を意識して取り入れることで、スタッフルームを居心地よくなるよう活用してみてもどうだろうか。